

コロナ禍の認知症にご注意

【認知症には2つの症状】

認知症の症状は下記の2つに大きく分けられます

①「認知能力の低下」

■記憶するのが苦手 ■時間・場所 ■人の認知が曖昧になります。このように症状が出た場合には「専門医」を受診してください

②「行動・心理症状

■情緒が不安定になり妄想で人を責める ■声を荒げ、人に手を上げる ■無気力になる ■睡眠リズムが乱れるなど

【状況に合わせて、冷静に、穏やかに接するように心掛ける】

①「認知能力の低下」

<時間・場所・人の認知が曖昧>

○:「次はこうしたらどう?」というサポートを行う。

×:失敗を非難し、注意する。

<物事の手順に戸惑う>

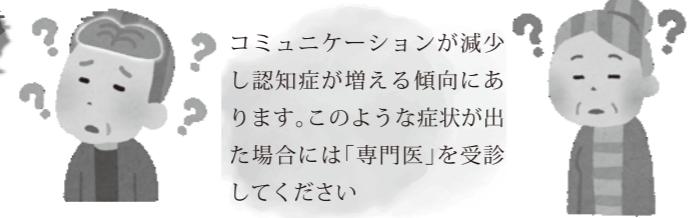
○:「朝ごはんですよ!」など時間や季節が分かるように、声掛けを行う。

×:「今日が何日か分かる?」など分かっていることを試す声掛けはしない。

非難や注意は逆効果です!! 患患者さんが自分でできることは自分でしてもらいま

「タイミングをみて家族は手を貸す」ことが重要です。

協同組合 山梨県柔道整復師会 理事長 大澤正英



②「行動・心理症状

<時間・場所・人の認知が曖昧>

<妄想で人を責める>

○:患者さんの話を一旦全部聞き、気持ちを落ち着かせたあと、一緒に探す。

×:「そんなことはしていない!」と否定をする。

<情緒が不安定>

○:患者さんの気持ちに共感を示す
×:気持ちを否定し、非難する。

編集後記

令和3年度山梨県地震防災訓練ご苦労様でした。

「南海トラフ巨大地震」はすでに始まっているでは? 太平洋プレートが活発化している影響で、フィリピン海プレートに大きな負荷がかかり、各地で立て続けに地震や火山噴火が起こっています。12月3日には山梨県・富士五湖と和歌山県・紀伊水道で震度5弱の強い地震が起こりました。また12月4日からは鹿児島県・トカラ列島近海・日本列島全体で250回以上の揺れが継続的に観測されています。山梨県でも地震が頻繁に起こっていてそれもまた不安であるが、今自分がどんな所に住んでいて、どういう危険性があり、過去にどんな災害があったかを学び、そのために何を備え、避難場所の確認等具体的に考える必要性を改めて確認する事と自分の身の安全を守る姿勢が必要かと思われます。

新型コロナウイルス感染症対策も、基本的(密・マスク・うがい・手洗い・消毒)な事に気を付けて頑張っていきましょう.....

副会長 井出 正治

発 行 公益社団法人山梨県柔道整復師会

発行責任者 大室 正美

編集責任者 渡辺 直也

甲府市中央4丁目12-21

連絡先 TEL 055-232-5487 FAX 055-232-5482 http://www.yamasei.or.jp

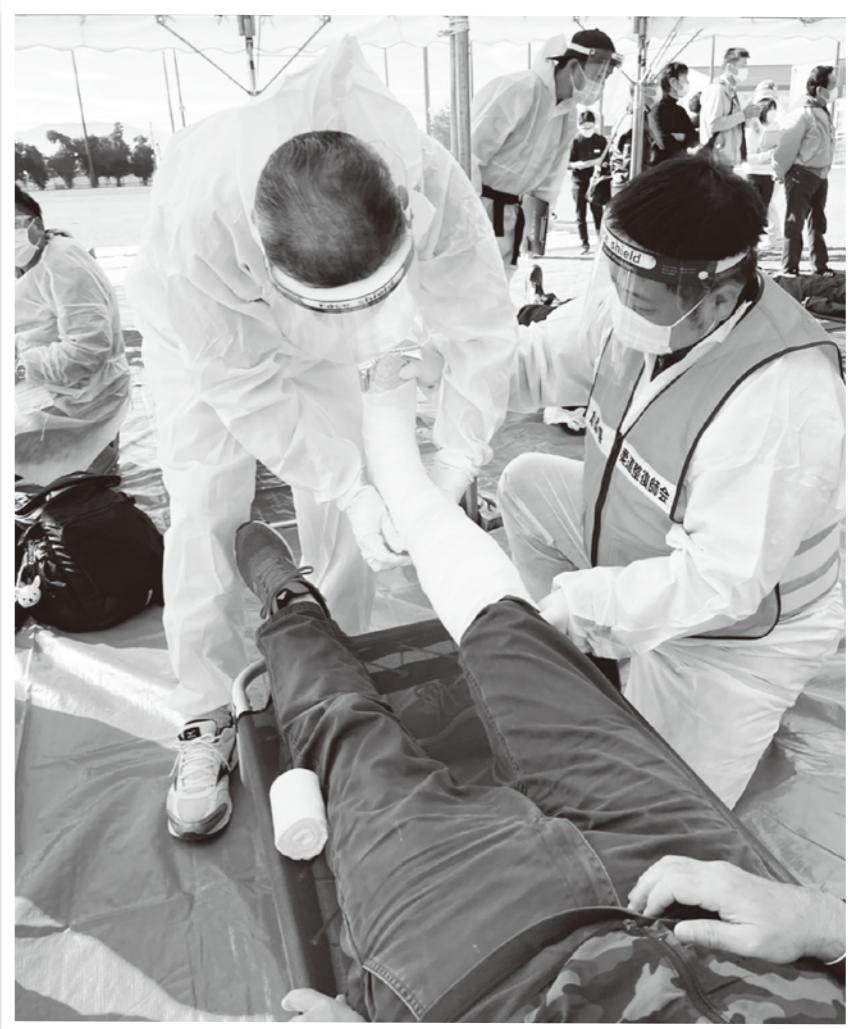
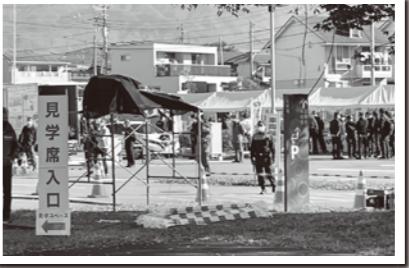
令和3年12月
公益社団法人
山梨県柔道整復師会

令和3年度 山梨県地震防災訓練

令和3年11月14日(日)午前8時20分頃、藤の木愛川断層領域を震源とするM7.0規模の直下型地震が発生、山梨市では震度6強を観測し、甚大な被害となった事を想定した、山梨市と山梨県との大規模な合同防災訓練が行われました。

本会は、「トリアージ・医療救護所訓練」の外傷処置として参加、大腿骨骨折、上腕骨骨折、肩関節脱臼、下腿骨骨折、骨盤骨折等あらゆる外傷を想定、処置にあたりました。

外傷処置の国家資格を有する柔道整復師として、今後も山梨県地震防災訓練に積極的に参加し、災害時に地域貢献出来るよう努めて参ります。





第30回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会が11月21日、講道館大道場で行われ、兵庫県が優勝を飾りました。

兵庫県は2018年の第27回大会を制しており、台風で中止になった第28回大会とコロナ禍で中止となった第29回大会を挟んで、大会2連覇。

山梨県代表は芦澤尚秀監督、渡邊易彦コーチが率いての出場。

【先鋒:大木雄登(武川) 次鋒:白須和総(まるや接骨院) 中堅:天野貴博(孝道塾)
副将:山崎煌心(まるや接骨院) 大将:雨宮琴ノ葉(日下部)】



強豪石川県チームと互角以上の試合を開くも、代表戦にて惜敗となりました。近年、山梨県チームのレベル向上は目覚ましいものがあり、今後のさらなる活躍を期待しています。



文部科学大臣杯争奪第11回日整全国少年柔道形競技会が11月21日、講道館大道場で全国の予選を経て選抜された30組が参加して行われ、ともに5年生の兵庫県ペア(取:瀬良兼三、受:中原琉衣)が優勝を飾りました。山梨県チームは渡邊易彦会員が指導する孝道塾(取:岡あやの、受:渡辺柊成)が出場、素晴らしい演武を披露いたしましたが、惜しくも決勝進出はなりませんでした。



公益社団法人日本柔道整復師会ホームページ
<https://www.shadan-nissei.or.jp/>





第30回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会が11月21日、講道館大道場で行われ、兵庫県が優勝を飾りました。

兵庫県は2018年の第27回大会を制しており、台風で中止になった第28回大会とコロナ禍で中止となった第29回大会を挟んで、大会2連覇。

山梨県代表は芦澤尚秀監督、渡邊易彦コーチが率いての出場。

【先鋒:大木雄登(武川) 次鋒:白須和総(まるや接骨院) 中堅:天野貴博(孝道塾)
副将:山崎煌心(まるや接骨院) 大将:雨宮琴ノ葉(日下部)】



強豪石川県チームと互角以上の試合を開くも、代表戦にて惜敗となりました。近年、山梨県チームのレベル向上は目覚ましいものがあり、今後のさらなる活躍を期待しています。



文部科学大臣杯争奪第11回日整全国少年柔道形競技会が11月21日、講道館大道場で全国の予選を経て選抜された30組が参加して行われ、ともに5年生の兵庫県ペア(取:瀬良兼三、受:中原琉衣)が優勝を飾りました。山梨県チームは渡邊易彦会員が指導する孝道塾(取:岡あやの、受:渡辺柊成)が出場、素晴らしい演武を披露いたしましたが、惜しくも決勝進出はなりませんでした。



公益社団法人日本柔道整復師会ホームページ
<https://www.shadan-nissei.or.jp/>

